第一独立守備隊司令部略歴

通称号　満第一三六部隊、満第五七九部隊

年月日	略歴	摘要
昭5	明治四二年四月、満州（公主嶺？）において編成されたが、当時の状況については不詳である。	
	公主嶺に駐とんし、担任地域の警備ならびに討伐に任じていたが、以後、奉天に移駐した。	
昭8	当時の隷下部隊ならびにその駐とん地は、次のとおり	
	独立守備歩兵第一大隊……奉天	
	〃　第二大隊……錦州	
	〃　第三大隊……安東	
	〃　第四大隊……通化	
	〃　第五大隊……鉄嶺	
	〃　第六大隊……鞍山	
	各隷下部隊は、駐とん地付近の警備	
昭14	編成改正により隷下部隊は次のとおりとなる。	
8	独立守備歩兵第一大隊	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭16	8	独立守備歩兵第二大隊
		〃　第三大隊
		〃　第四大隊
	8	「ノモンハン」事変に、隷下部隊の一部（独守歩第一、第三大隊から各一小隊）が出動した
	7 16	臨時編成（甲）下令・・・・関特演発令
自7 30 至8 5		編成完結
		以後、改編まで奉天に駐とんし、隷下部隊の指揮に任じた
昭19	8 1	編成改正下令（第一独立守備隊司令部、復帰下令）
	8 5	第一〇一警備司令部編成完結（第一独立守備隊司令部復帰完結）
		司令官
		自昭八至昭九　中将　井上忠也
		自昭一〇至昭一一　少将　三毛一夫
		昭一一　中将　園部和一郎
		昭一二　中将　岩松義雄
		昭一三　中将　坂井徳太郎
		昭一四　少将　国分新七郎
		昭一六　少将　山内正文
		昭一八　少将　石野芳男
		昭一九　中将　落合鼎五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第一大隊略歷

通称号　満第一三八部隊

年月日	略歷	摘要
昭6	明治四一年二月、大連ー奉天間の鉄道守備のため、編成された部隊であるが、当時の状況については不明	
	第一独立守備隊司令官の隷下に属し、当時の編成ならびに配備は、次のとおり	
	大隊本部……公主嶺	
	第一中隊……郭家店（四平省）	
	第二中隊……公主嶺	
	第三中隊……公主嶺	
	第四中隊……長春（新京）	
	以上の各駐とん地にあつて満州事変勤務	
昭7 4 2	大隊の一部は、吉林省、農安付近の戦闘参加	
6 4	大隊の一部は、十三家子付近の戦闘参加	
9 12	大隊の一部は、後秀水溝付近の戦闘参加	
昭8	配備は、次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備	
	大隊本部……山城鎮（東辺道）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭8	10	第一中隊……郭家店
	8	第二中隊……柳河（東辺道）
至昭8	11	第三中隊……朝陽鎮（東辺道）
		第四中隊……通化（東辺道）
		吉、奉省境地区の討伐
昭9	11	以後、東辺道地区の討伐（昭和九年三月三十一日に至る）
		配備は、次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備
		大隊本部……四平街
		第一中隊……鉄嶺
		第二中隊……開原（昭和九年三月三十日より）
		第三中隊……四平街（昭和九年九月三十日より）
		第四中隊……郭家店
		前年度より東辺道地区の討伐続行
	12 19	第四中隊は、新京に移駐
自昭10	5 20	東辺道（奉天省、清原県）地区の夏季討伐に参加
至	7 2	
自	9 24	東辺道（安東省、奉天省）地区の秋季討伐に参加
至	11 30	
昭10	12 1	東辺道地区の冬季討伐に参加（昭和十一年二月十九日に至る）
自昭11	2 25	吉林省伊通県の春季討伐に参加
至	4 18	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

115103

昭12	4 22	軍令陸甲第三号により、独立守備第一大隊編成改正、同日編成完結
	6 3	第一中隊は、鉄嶺より四平街に移駐、爾後同地の警備
	6 30	第三中隊は、四平街より西安に移駐爾後同地の警備
	6	各隊の配備は、次のとおり
		本部、第一中隊……四平街
		第二中隊……開原（四平省）
		第三中隊……西安（四平省）
		第四中隊……新京
昭13	3 30	防衛担任地区変更のため、各隊はそれぞれ守備地を出発、奉天に移駐
自昭13至	6 14	昭和十三年度第一期討伐に参加（奉天省、本溪県）
	7 4	
昭14		配備の状況は次のとおりで、奉天地区の警備
		大隊本部……奉天
		第一中隊……四平街
		第二中隊……奉天
		第三中隊……撫順
		第四中隊……奉天
	8	「ノモンハン」事変に、一小隊（長、青山少尉）出動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭15		配備に変更がなく、奉天地区の警備
昭16	4	第一中隊の守備地変更により、配備は次のとおり 大隊本部……奉天 第一中隊……奉天 第二中隊……奉天 第三中隊……撫順 第四中隊……奉天
昭16	5 20	部隊主力（除第三中隊）は、北支に移駐のため、奉天出発、同日、第三中隊は撫順出発、北支に移駐
	5 21	満支国境通過
自至	5 26	同日、本部以下各中隊は天津着、同地付近の警備
	7 24	西部翼東、東部燕京道地区の肅正作戦に参加
	7 16	臨時編成（甲）下令
	8 5	編成完結
	7 28	本部以下各中隊は、移駐のため北支玉田出発
	7 31	満支国境通過
	8 1	本部、第二中隊、第四中隊は、奉天着爾後同地付近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭17	1 14	第一中隊および第三中隊は、奉天省、撫順着爾後同地付近の警備
		第四中隊は、移駐のため、奉天出発、同日大石橋着、爾後同地付近の警備
昭18	8 4	第三中隊は、移駐のため撫順出発、同日鞍山着、爾後同地の警備
		同日、第四中隊は、大石橋出発、撫順着、爾後同地の警備
	不明	第一中隊は、守備地変更のため、撫順出発、同日鞍山着
	9 8	第一中隊および第四中隊の主力は、討伐のため奉天出発
	9 15	満支国境山海関通過
	9 22	満支国境義院口通過
	10 27	駐屯地に帰還のため、熱河省青龍県出発
		同日満支国境義院口通過
	10 29	満支国境通過
昭19	10 30	第一中隊は、奉天着、第四中隊は撫順着、それぞれ同地付近の警備
	1 4	第一中隊は、西南地区派遣のため、鞍山出発
	1 6	興安西省、林西着、同地付近の警備
	5 2	第一中隊は、原隊復帰のため、林西出発
	5 5	原隊（奉天）着、爾後同地付近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19	6	25	軍令陸甲第五五号により、独立守備歩兵第一大隊復帰下令
	7	10	復帰完結、同日、独立歩兵第二六九大隊に編入
	〃	自昭八至昭二	大隊長 大佐 本間貞次
	〃	自昭二至昭三	大佐 布施安昌
	〃	自昭三至昭五	大佐 池田栄之助
	〃	自昭五至昭六	大佐 黒須源之助
	〃	自昭六至昭八	大佐 大石千里
	〃	自昭八至昭九	大佐 堀重光

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第二大隊略歴

通称号　満第三八七部隊

年	月	日	略歴	摘要
自大14			明治四十一年満州（地点不明）において、同地の鉄道守備のため編成されたが、	
至昭7			当時の細部について不明	
昭8	12		部隊の主力は、奉天に駐とんし、第一独立守備隊司令官の隷下に属し担任地区における鉄道の守備に任じた。	
			大隊は、次の配備により、担任地区の警備	
			大隊本部……奉天	
			第一中隊……奉天	
			第二中隊……撫順	
			第三中隊……奉天	
			第四中隊……奉天	
自昭9	2	5	第三次三角地帯の冬季討伐に参加	
至	3	20		
自	9	16	東辺道秋季討伐に参加	
至	11	16		
自昭10	5		東辺道地区討伐に参加	
至昭11	6			
自昭12			各隊の配備に変動はなく、担任地域の警備	
至昭13	3	1	部隊の主力は、奉天に駐とんし、担任地域の警備	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭13	3	5	部隊の一部は山海関に駐とんし国境付近の警備
	3	31	防衛担任地区変更にともない、移駐のため奉天出発
	7	1	同日錦州着、同地付近の警備
自昭14	2	10	部隊の一部は、山海関着、同日錦州着、以後同地付近の警備
至	2	17	奉天省、海城県ならびに安東省岫巖、鳳城各県にあつて第一独立守備隊の第三期討伐に参加
昭	3		大隊は、次の配備により、担任地区の警備
			大隊本部……錦州
			第一中隊……阜新
			第二中隊……山海関
			第三中隊……錦州
			第四中隊……鄭家屯
	7		部隊の一部（当時の三年兵が主体）は「ノモンハン」事変に参加
	8	12	第二中隊は、山海関出発
	8	13	関東州界通過、同日周水子着、同地付近の警備
	9	28	第二中隊は、周水子出発、同日関東州界通過
	9	29	錦州着
昭15			太隊の配備に変更はなく、各駐とん地付近の警備
	8	21	関作命甲第三四六号により、熱河省共産軍討伐のため各駐とん地出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	8	22	熱河省、承德着、同地付近の警備
	8	24	部隊の一部は、承德出発
	8	26	滦平県長沙子着、同日長沙子出発
	8	28	豊寧県揚木柵子着、同日より討伐ならびに警備
	10	10	揚木柵子出発
	10	12	満支国境（白馬関）通過
	10	14	北支、密雲着、同地付近の討伐に参加、同日密雲出発、同日満支国境（古北口）通過
	11	6	熱河省、阜新着、同地付近の警備
	12	27	旅大地区警備のため、阜新出発、同日関東州通過
	12	28	周水子着、同地付近の警備
自昭15	9		部隊の主力は、第九独立守備隊司令官の指揮下に入り熱河省地区より、満支国境（古北口）通過、省境および北支地区の討伐に参加
至	12		
昭16	9	1	部隊の一部は、錦州に駐とん、
	9	20	錦州出発　同日承德着、同地付近の警備
	9	27	承德出発、同日満支国境通過、事変地勤務
	12	30	原隊復帰のため、密雲県出発、同日錦州着
自昭17	8		部隊の主力は、第九独立守備隊司令官の指揮下に入り、熱河省地区より満支国境

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至	10	（古北口）通過、省境および北支地区の討伐に参加
昭18	2 10	部隊の一部（第一中隊等）は、熱河省および満支国境付近討伐のため、阜新出発
	2 13	山海関通過、以後北支において警備
	4 1	北支出発、同日山海関通過
	4 5	阜新着
	9 10	討伐のため阜新出発
	9 13	山海関通過、以後北支において警備
自昭18	1	第四中隊は、旅順要塞司令官の指揮下に入り、関東州周水子において要塞地区の警備
至	12	
自昭19	1	部隊の主力は第九独立守備隊司令官の指揮下に入り、熱河省境付近および北支、（北京北方地区）の討伐に参加
至	4	
	4 10	改編のため、各隊は旅順に集結
	4 29	旅順において第一一派遣隊に編入（同日、独立守備歩兵第二大隊復帰完結）同日旅順出発
		注　第一一派遣隊の行動、概要
		旅順↓蘇家屯↓安東↓京城↓釜山港↓博多港↓下関↓金沢↓新潟↓青森↓函館↓小樽（上陸訓練後、歩五旅司に合流）昭和十九年五月二十七日発↓幌筵島着（昭和十九年六月二日）↓温彌古丹島着（昭和十九年六月九日）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1152の5

〃	以降八月一日	大佐 土持 城
〃	昭和五年四月一日	大佐 多田 金 治
〃	昭和五年四月一日	大佐 大岩 実
〃	昭和四年一月一日	中佐 小川 全 勝
〃	昭和九年一月一日	中佐 小田 健 作
大隊長	昭和九年八月一日	中佐 水原 幾 重

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第五大隊略歴

年	月	日	略歴	摘要
昭4			奉天省鉄嶺において編成され、第一独立守備隊司令官の隷下に属していたが、当時の状況については不明である。	
昭5			当大隊の配備は、次のとおりで、各駐とん地付近の警備に任じた。 大隊本部……鉄嶺 第一中隊……四平 第二中隊……開原（四平省） 第三中隊……鉄嶺 第四中隊……鉄嶺	
昭6	9	21	満州事変に参加	
自	9	29	吉長線の警備	
至	9	29		
自	11	12	四洮線の警備（この間、一棵樹、通遼東南地区、八面城付近の戦闘参加）	
至	11	13		
自	11	31	部隊の一部は、吉林市の警備	
昭7	4	23		
至	4	30	部隊の一部は、通遼の警備	
自	8	27	瀋海線の警備	
至	10	11		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭8	2	10	12	四洮線の警備
至	3	13	13	
自	3	12	28	奉天東南地区の警備
至	4	4	4	
自	4	29	5	奉天省康平地区の警備
至	5	3	5	
自	5	5	5	奉天東南地区の警備
至	5	30	5	
自	12	10	12	徐文海匪討伐に参加ならびに桓仁、輯安各県の警備
至	12	30	12	
自昭9	2	20	3	昭和九年冬季討伐に参加ならびに桓仁、輯安各県の警備
至	3	16	3	
自	3	21	3	奉吉線の守備ならびに奉天省、清原県、四平省海龍県の警備
至	8	31	8	
自	9	1	9	昭和九年秋季東辺道地区討伐に参加
至	12	15	12	
自昭10	1	30	3	昭和一〇年冬季東辺道地区討伐に参加
至	3	5	3	
自	5	18	6	昭和一〇年夏季東辺道地区討伐に参加
至	6	30	6	
自	9	23	11	昭和一〇年秋季大討伐に参加
至	11	30	12	
自昭10	12	1	2	安東省通化県にあつて、昭和一〇年冬季大討伐に参加
至昭11	2	27		
昭11	2			大隊の配備は、次のとおり
				大隊本部……山城鎮（四平省）
				第一中隊……朝陽鎮（四平省）
				第二中隊……柳河（通化省）
				第三中隊……山城鎮（四平省）
				第四中隊……通化（通化省）

この間一部は、遼西地区の討伐に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭12 2 28	通化省通化県において昭和一一年春季討伐に参加	
至 6 30		
自 7 1	通化省通化県において昭和一一年夏季討伐に参加	
至 9 30		
自 10 1	昭和一一年度第二期後期討伐に参加	
至 11 30		
自 12 1	通化省通化県において昭和一一年度第三期討伐に参加	
至 昭13 3 30		
自 4 1	通化省通化県において昭和一二年度第一期討伐に参加	
至 7 31		
自 8 1	通化省通化県において昭和一二年度第二期討伐に参加	
至 8 16		
8 16	移駐のため、通化出発	
8 18	熱河省境通過、同日熱河省寧城県平泉着	
昭13 4 1	同日より、錦承線の警備ならびに熱河省の防衛	
	大隊は、次の配備により各駐とん付近の警備	
	大隊本部……通化（通化省）	
	第一中隊……牛毛撈（安東省、寛甸県）	
	第二中隊……柳河（通化省）	
	第三中隊……輯安（通化省）	
	第四中隊……通化（通化省）	
自昭14 2 8	大隊の一部は、奉天省、西安にあつて同地付近の警備	
至 5	大隊の一部は、通化省八道江にあつて同地付近の警備	
9 6	「ノモンハン」事変応急派兵下令、同日編成完結	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭15			
3			
1			
東安省、東安に移駐	大隊長	昭九八	大佐 脇坂二郎
	〃	昭一一一〇	大佐 鈴木貞次
	〃	昭一一二	大佐 岩佐三郎
	〃	昭一一三 改編時	大佐 瓦田隆根

9	8	興安北省、阿爾山着、第三独立守備隊長の隷下に入る。
9	25	阿爾山出発
9	27	錦州省錦州着、同日復員完結
10	1	軍令陸甲第一四号により、歩兵第八九連隊に編入
		（同日独立守備歩兵第五大隊復帰完結）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五独立守備隊司令部略歷

通称号　満第一三〇部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭11	8	15	浜江省哈爾浜市において編成完結 次の各隷下部隊を指揮し、各地の守備ならびに討伐に任じた。 独立守備歩兵第二五大隊 〃　第二六大隊 〃　第二七大隊 〃　第二八大隊 〃　第二九大隊 〃　第三〇大隊	
昭14	8		以後司令部は、改編まで、哈爾浜に駐とんし前任務の続行 隷下部隊の一部「ノモンハン」事変に参加 編成改正により、隷下部隊は、次のとおりとなり前任務の続行 独立守備歩兵第二七大隊 〃　第二九大隊 〃　第三〇大隊	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭16	7	16	独立守備第二五、第二六大隊は第七独立守備隊に、独立守備第二八大隊は第八独立守備隊に編入
	7	30	臨時編成（甲）下令
昭19	8	1	編成完結
	8	5	軍令陸甲第八二号により、編成改正着手
			第一〇二警備司令部編成完結（第五独立守備隊司令部復帰完結）
			司令官　初代　中将　安藤利吉
			〃　二代　中将　安井藤治
			〃　三代　少将　大迫通貞
			〃　四代　中将　田辺松太郎
			〃　五代　中将　笠原嘉兵衛

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第三〇大隊略歴

通称号　満第八二二部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭11	4		軍令陸甲第三号により、奉天省、鉄嶺において編成完結	
			編成	
			大隊本部	
			歩兵中隊……二	
	4	下旬	部隊の主力は、浜江省哈爾浜に移駐し、配備は次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備	
			大隊本部	
			第一中隊	
			哈爾浜	
			第二中隊……双城（浜江省）	
昭12	4		昭和一二年軍令陸甲第三号に基づき、哈爾浜において第三中隊、第四中隊を増設	
	7	3	第三中隊は、浜江省、安達に移駐	
自10 至15	10	29	部隊主力をもつて浜江省内秋季討伐に参加	
昭13	3	7	第四中隊は、移駐のため、哈爾浜出発	
	8	8	五常県五常着、同地付近の警備	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 昭14 8 2	部隊主力をもつて浜江省、五常県の討伐に参加	
至 昭14 9 4	部隊主力をもつて浜江省北安省内の討伐に参加	
自 昭14 9 4	部隊の一部は、「ノモンハン」事変参加のため出動	
至 昭14 12 10		
自 昭14 12 5	哈爾浜、五常各地区の防空戦時態勢による警備	
至 昭14 12 9		
自 昭15 7 16	浜江省（青岡付近）、北安省（海倫県）の討伐に参加	
至 昭15 9 13		
自 昭15 11 21	各隊は、次の配備により、駐とん地等の警備	
至 昭15 12 9		
	大隊本部	哈爾浜
	第一中隊	
	第二中隊	
	第三中隊	
	第四中隊	五常
昭16 2 14	第二中隊等は、東南地区討伐のため、哈爾浜出発	
2 15	間島省、延吉県明月溝着、以後討伐に参加	
5 20	明月溝出発、同哈爾浜着、同地付近の警備	
1 17	第四中隊は、討伐のため、五常出発、同日沙河子着	
	五常県下の討伐に参加	
2 10	沙河子出発、同日哈爾浜出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5	18	第一中隊は、哈爾浜出発
5	19	浜江省、一面坡着、同地付近の警備
6	8	第四中隊は、五常出発、同日張家湾着、同地付近の警備
7	19	張家湾出発、同五常着
7	16	臨時編成（甲）下令
7	30	臨時編成完結
8	31	第一中隊は、一面坡出発、同日珠河県境通過
9	4	哈爾浜着、同地付近の警備
9	19	部隊主力は、西南地区の討伐のため、哈爾浜出発
9	23	熱河省承徳着
9	27	承徳出発、同日青龍県境通過、同日青龍県熊虎頭着、同地等を基点として討伐に参加
11	1	討伐のため、熊虎頭出発、同日満支国境喜峰口通過
11	9	河北省遷安県撤河橋着、同地付近の警備
11	10	撤河橋出発、同日満支国境喜峰口通過、同日熊虎頭着
11	13	熊虎頭出発、同日興隆県境通過、同日興隆県半壁山着

第一中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭16	11	30	半壁山出発
	12	2	青龍県境通過、同日熊虎頭着
	12	14	熊虎頭出発、同日満支国境楡木嶺通過、同日河北省遷安県瓜山着、同日瓜山出発、同日満支国境青山口通過、同日熊虎頭着
	11	1	第二中隊
			討伐のため、熊虎頭出発、同日満支国境董家口通過、同日、河北省遷安県撤河橋着
	11	10	撤河橋出発、同日満支国境董家口通過、同日熊虎頭着
	11	13	熊虎頭出発、同日興隆県境通過、同日興隆県半壁山着
	11	30	半壁山出発
	12	1	青龍県境通過、同日熊虎頭着
	12	14	討伐のため熊虎頭出発、同日満支国境楡木嶺通過
			同日、河北省遷安県瓜山着、同日満支国境青山口通過、同日、熊虎頭着
			第三中隊
昭16	9	30	討伐のため、満支国境付近青龍県董家口出発、同日満支国境鉄門関通過、同日河北省西安県喜峰口着、同日喜峰口出発、同日満支国境鉄門関通過、同董家口着、同地付近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭16	11	2	討伐のため、董家口出発、同日満支国境鉄門関、同日河北省遷安県撤河橋着、同日撤河橋出発、同日満支国境鉄門関通過、同日董家口着
	11	16	董家口出発、同日興隆県境通過、同日興隆県半壁山着、同地付近の討伐に参加
	11	27	半壁山出発、同日満支国境通過、同日河北省扁石寨家着、同日満支国境通過、同日半壁山着
	12	1	半壁山出発、満支国境龍景関通過
	12	3	満支国境鉄門関通過、同日董家口着
			第四中隊
	12	22	浜江省五常県五常出発
	12	23	熱河省、承徳着、同地付近の警備
	12	28	承徳出発、同日青龍県境通過、同日青龍着
			○
昭17			部隊主力は、熱河省、青龍県熊虎頭を基点として前年度に引続き河北省遷安県地区討伐
	9	16	復帰下令
	11	10	復帰完結
			○
			第一中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭17	1	18	熊虎頭出発、同日満支国境大嶺寨通過
	1	21	満支国境楡木嶺通過、同日熊虎頭着
	1	26	熊虎頭出発、同日青龍県牛心山着
	2	16	牛心山出発、同日満支国境喜峰口通過、同日河北省遷安県散河橋着
	2	17	散河橋出発、同日満支国境喜峰口通過
	2	18	牛心山出発、同日満支国境大嶺寨口通過、牛心山着
	4	1	牛心山出発、同日満支国境喜峰口通過、北支撒河橋着
	4	25	原隊復帰のため撒河橋出発、同日満支国境喜峰口通過
	4	26	浜江省、哈爾浜着、同地付近の警備
	8	26	哈爾浜出発
	8	28	満支国境喜峰口通過、同日北支、撒河橋着
	12	6	満支国境通過
	12	8	哈爾浜着、同地付近の警備
			第二中隊
昭17	1	18	熊虎頭出発、同日満支国境大嶺寨口通過、同日河北省遷安県大平寨着、同地付近の討伐に参加
	1	21	大平寨出発、同日満支国境楡木嶺通過、同日熊虎頭着、同地付近の警備
	2	18	熊虎頭出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭17	2	19	満支国境青河沿通過、同日河北省遷安県羅家屯着
	2	20	羅家屯出発、同日満支国境大嶺寨口通過、同日熊虎頭着、同地付近の警備
	3	12	熊虎頭出発、同日満支国境鉄門関通過
	3	13	熊虎頭帰着、同地の警備
	4	2	転進のため、熊虎頭出発、同日満支国境喜峰口通過
			同日河北省遷安県撒河橋着、同地付近の警備
	9		以降、熱河省寛城ならびに、満支国境喜峰口を基点として満支国境地帯の討伐に参加
			第三中隊
昭17	1	1	討伐のため董家口出発、満支国境鉄門関通過、同日河北省遷安県花家峪着、同地付近の討伐
	1	5	満支国境鉄門関通過、同日董家口着
	1	23	転進のため董家口発、同日満支国境鉄門関通過、同日遷安県喜峰口着、同地の警備
			第四中隊
	1	1	熱河省、青龍県青龍出発
	1	5	満支国境冷口着、同日河北遷安県建昌営着、同日満支国境白峪山通過
	1	7	青龍着、同地付近の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18	1	26	青龍出発、同日熊虎頭着、同地付近の警備
	2	2	熊虎頭出発、同日冷口着、同地付近の警備
	2	27	冷口出発、同日満支国境通過、同日河北省、建昌営着
	2	28	建昌営出発、同日満支国境通過、同日冷口着
	3	22	冷口出発、同日満支国境通過、建昌営着
	3	23	建昌営出発、同日満支国境白羊峪口通過
	3	24	熊虎頭着、同地付近の警備
	4	2	熊虎頭出発、同日満支国境鉄門関通過、同日河北省遷安県撒河橋着、同地付近の警備
			○各中隊は、熱河省青龍県双山子、龍王廟、木頭橙等を基点として青龍県内の警備ならびに討伐に従事
	10下旬		それぞれ現駐とん地を出発し、原駐地哈爾浜に帰着
昭18	3	26	哈爾浜出発
	4	5	熱河省、青龍県木頭橙着、同地付近の警備
	5	13	木頭橙出発
	5	14	建昌県和尚房子着、同地付近の警備

○第一中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18		第二中隊
4 10	転進のため、喜峰口出発、同日満支国境鉄門関通過	
4 11	熱河省、青龍県双山子着、同日より同地付近の警備	
5 15	転進のため、双山子出発、同日青龍県境通過、同日建昌県建昌着、同日より同地付近の警備	
9 12	討伐のため、建昌出発	
9 14	満支国境城子峪通過、河北省臨榆県石門寨着	
9 27	石門寨出発、同日満支国境義院口通過	
10 3	建昌県建昌着	
10 10	討伐のため建昌出発	
10 14	青龍県寛城着、同地付近の警備	
10 18	原駐地に帰還のため、寛城出発	
10 24	朝陽県境通過	
10 26	哈爾浜着、同地の警備	
昭18		第三中隊
4 10	討伐のため、喜峰口出発、同日満支国境鉄門関通過	
4 13	熱河省、青龍県龍王廟着	
4 14	龍王廟出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18

4	15	建昌県尖廠着、同地の警備
10	25	原駐地に帰還のため、尖廠出発、同地建昌県境通過
10	26	哈爾浜着、同地の警備
		第四中隊
4	10	河北省、遼安県撒河橋出発、満支国境鉄門関通過
4	11	青龍県双山子着、同地の警備
5	11	転進のため、双山子出発
5	12	青龍県境通過
5	14	建昌県叨噸噔着、同地の警備
9	9	叨噸噔出発
9	14	青龍県境通過、同日満支国境城子峪通過、同日河北省臨榆県石門寨着
9	28	石門寨出発、同日満支国境義院口通過
10	2	青龍県境通過
10	4	叨噸噔着、同地付近の警備
10	18	原駐地帰還のため、寛城出発
10	24	朝陽県境通過
10	26	浜江省、哈爾浜着、同地の警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19	3	31	昭和十八年軍令陸甲第一〇六号により、独立守備歩兵第三〇大隊復帰完結（海上機動第二旅団、第三大隊編成完結）
	4	11	哈爾浜出発
	4	13	関東州通過、同日旅順着
	5	12	旅順出発
	5	13	関東州界通過
	5	14	鮮満国境通過
	5	18	南方派遣のため、釜山出発
	6	13	「ガレラ」（ハルマヘラ）上陸

大隊長　昭十二当時　大佐　見城五八郎
大佐　杉野　巌
中佐　矢沢清美
中佐　金井塚勇吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六独立守備隊司令部略歷

通称号　満第三三一部隊　満第一九六部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭14	8		東安省、東安において編成完結 次の隷下部隊を指揮して、担任地域の警備に任じた。 独立守備歩兵第二二大隊……東安 同　第二三大隊……林口	
昭16	7		「ノモンハン」事変に隷下部隊の一部（山砲一小隊）が参加 関特演の発令があつたが、隷下部隊の移駐はなかつた。	
昭19	4	19	南方派遣のため、隷下部隊が東安を出発した （当司令部は、東安に残留）	
	6	15	司令官以下全員、牡丹江に移駐	
	8	4	第一〇三警備司令部に編入、同日第六独立守備隊司令部復帰完結 司令官　初代　大佐　中代豊次郎 二代　大佐　岸川健一 三代　少将　渡辺勝 改編時　大佐　宇部四雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第二二大隊略歴

通称号　満第四二八部隊

年月日	略歴	摘要
昭9 12 1	昭和九年軍令陸甲第一二号により編成下令	
12 11	奉天省、遼陽において編成完結、第四独立守備隊司令官の隷下に入る。	
	編成	
	大隊本部	
	歩兵中隊……二	
	同日より同地付近の警備	
昭10 3 16	移駐のため、大隊は、遼陽出発	
3 17	永吉県境通過	
3 21	大隊本部、第二中隊は東安省、密山着、第一中隊は東安省滴道着、同日より、林	
自4 10	密線の警備ならびに鉄道建設の援護	
至4 11	部隊の一部は、興凱湖北方白泡子付近の討伐に参加	
自4 17	部隊の一部は、興凱駅北方一〇キロ。メートルの対匪戦闘に参加	
至4 21		
自8 24	部隊の一部は密山県慶餘鎮付近の討伐に参加	
至8 27		
昭11 3 1	陸満密第二七号により編成改正（歩兵中隊四となる）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

次の配備により、同地付近の警備			
大隊本部……密山			
第一中隊……滴道			
第二中隊……虎林			
第三中隊……密山			
第四中隊……黒咀子			
部隊の一部は、虎林線および虎林河左岸地区粛正討伐に参加	自昭12	9	1
（この間、九月九日揚子河子の戦闘および十一月二十八日黒咀子北方虎林河左岸の戦闘に参加）	至	10	31
大隊本部、第三中隊は、密山より東安に移駐、同地付近の警備	昭13	3	
第一中隊の一部は、新密山において同地付近の警備	昭14	3	
第二中隊の一部は、滴道において同地付近の警備			
部隊の一部は、虎林北方地区粛正作戦に参加		4	19
戦時防衛下令		7	16
部隊の一部は虎林北方黒精子溝付の討伐に参加		8	5
大隊本部、第二中隊は、滴道に移駐		8	
第六独立守備隊司令官の隷下に入る。	昭14	8	
第一中隊は、滴道より東安に、第三中隊は東安より鶏西に移駐			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭15	9	20	戦時防衛解除
	12		大隊本部、第二中隊、第三中隊は、東安に移駐
昭16	7	16	第一中隊は、東安より鶏西に移駐、同地付近の警備
			臨時編成（甲）下令
	7	30	編成完結（大隊砲小隊、山砲小隊各一を増強）
			戦時態勢となり、配備は次のとおり
			大隊本部……東安
			第一中隊……鶏西
			第二中隊……東安
			第三中隊……東安
			第四中隊……虎林
			大隊砲小隊……東安
			山砲小隊……東安

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭17	9 16	軍令陸甲第八一号により復帰下令
	10 30	復帰完結
昭18	8 25	部隊の一部（第二中隊が主体）は、西南地区第四期粛正討伐に参加のため、東安出発、同日林口県境通過
	8 30	熱河省、凌源着
	10 5	城外粛正のため、満支国境、青山口通過（北支へ）
	10 11	満支国境、楡木嶺通過（満州へ）
	11 19	満支国境界嶺口通過（北支へ）
	11 22	満支国境、界嶺口通過（満州へ）
	12 15	満支国境、関上通過（北支へ）
	12 19	作戦終了、満支国境関上通過（満州へ）
昭19	1 17	満支国境、喜峰口通過（北支へ）
	1 23	満支国境、喜峰口通過（満州へ）
昭19	2 26	原隊復帰のため、青龍県龍鬚門出発
	2 29	密山県境通過、同東安着
	4	動員下令（南方派遣）
	4 12・14	転用のため、東安出発
	4 12・14	密山県境通過

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至		
4	17	関東州界通過
4	17	関東州旅順着、第一〇派遣隊に編入（第二軍隷下）
5	11	旅順発
5	12	関東州界通過
5	12	鮮満国境（安東）通過
5	13	
5	18	南方派遣のため釜山港出帆
6	23	「ダバオ」上陸

大隊長　初代　中佐　平岩棟一
二代　中佐　川崎晃
三代　中佐　平野
四代　中佐　能島
南方派遣時　中佐　田村多郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第七独立守備隊司令部略歴

通称号　満第七二六部隊

年月日	略歴	摘要
昭14 8	牡丹江省、牡丹江市において編成完結	
	次の隷下部隊を指揮し、担任地域の警備	
	独立守備歩兵第二四大隊	
	同　第二五大隊	
	同　第二六大隊	
8 中旬	三江省、佳木斯に移駐し、隷下部隊を指揮し、担任地域の警備等に任じた。	
自10 10 至10 16	依蘭県大青山付近の秋季討伐の指揮に任じた。	
自12 8 至昭15 1 28	第四師団の通河県下冬季討伐に隷下部隊参加	
自9 24 至10 10	第七独立守備隊の樺川県追分および彌栄付近討伐の指揮に任じた。	
自12 14 至昭16 1 11	第四師団の通河県下冬季討伐に隷下部隊参加	
7 16	臨時編成（甲）下令	
7 30	編成完結	
	引続き、佳木斯に駐とん、隷下部隊の指揮に任じた。	
昭17 9 16	復帰下令	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18	10	15	復帰完結
			佳木斯に駐とんし任務続行
昭19	5	16	軍令陸甲第五五号により復帰および編成下令
	7	10	佳木斯において第七独立守備隊復帰完結ならびに富錦駐とん司令部編成完結（完結後、富錦に移駐）
			司令官　初代　少将　岩永汪
			二代　少将　鬼武五一
			三代　少将　山村治夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第二四大隊略歴

通称号　滴第八四六部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭9	12	1	軍令陸甲第一二号により編成下令	
	12	9	奉天省、遼陽において編成完結、第四独立守備隊司令官の隷下に入る。 編成 大隊本部 歩兵中隊……四	
昭10	3	15	同日より、同地付近の警備 移駐のため、遼陽出発 各隊は、つぎのとおりの配備となる。 本部……勃利（東安省） 第一中隊……勃利（東安省） 第二中隊……林口（東安省） 第三中隊……千振（三江省） 第四中隊……佳木斯（三江省）	千振……旧湖南営
	3			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭10 至昭11	3 3	勃利を中心とした山岳地帯の討伐を、春秋二期実施
昭14	8	編正改正により、第七独立守備隊司令官の隷下に入る
		○
		大隊本部
昭12	7 5	勃利より佳木斯に移駐、同地に改編まで駐とんし、隷下部隊の指揮に任じた。
昭19	7	改編のため、佳木斯より富錦に移駐
		第一中隊
昭11	3 3	勃利より佳木斯に移駐、同地付近の警備
昭19	7	改編のため佳木斯より富錦に移駐、同地付近の警備
		第二中隊
昭10	3	遼陽より、三江省、樺川県千振（旧湖南営）に移駐、同地付近の警備
昭12	7 5	千振より佳木斯に移駐、同地付近の警備
昭13	3 9	移駐のため、佳木斯出発、同日、三江省湯原県涼台着、同地付近の警備
昭14	9 4	一部は、「ノモンハン」事変参加のため、佳木斯出発、同日勃利県境通過
	9 7	興安南省通過、同日興安北省境通過、同日阿爾山着
	9 25	阿爾山出発、同日興安北省境通過、同日興安南省通過
	9 28	林口県境通過
	9 29	三江省佳木斯着、同日原隊復帰（涼台）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭15	3	涼台より蓮江口に移駐
昭18	11	蓮江口より佳木斯に移駐、同地付近の警備
		第三中隊
昭10	3	遼陽より林口に移駐、同地付近の警備
昭12	7	林口より興山鎮に移駐、同地付近の警備
	5	
昭14		興山鎮より帯嶺に移駐、同地付近の警備
昭17		帯嶺より南叉に移駐、同地において改編
昭19	7	南叉より富錦に移駐
		第四中隊
昭10	3	遼陽より佳木斯に移駐、同地付近の警備
		佳木斯より蓮江口に移駐、同地付近の警備
昭15	11	蓮江口より湯原に移駐、同地付近の警備
昭18	11	湯原より佳木斯に移駐、同地付近の警備
昭19	7	佳木斯より富錦に移駐、同地付近の警備
		○
昭16	12	部隊の全力をもつて、小興安嶺（海倫の東北方地区）付近の討伐
昭19	5	復帰ならびに臨時編成（甲）下令
	7	復帰ならびに編成完結、同日独立歩兵第二六六大隊に編入
	10	
	16	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大隊長

初代　中佐　岩松千刃

二代　大佐　塙三郎

三代　大佐　湯口俊太郎

四代　大佐　山田

五代　中佐　後藤俊蔵

六代　大佐　高畑洋平

改編時　大尉　知久直蔵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立守備歩兵第二六大隊略歷

通称号　満第三三八号

年	月	日	略歷	摘要
昭11	4	25	奉天省、鞍山において編成完結、同日より第五独立守備隊司令官の隷下に入り、同地付近の警備	
			編成	
			大隊本部	
			歩兵中隊……一四	
	10		北安省に移駐、次の配備により、同地付近の警備	
			大隊本部……北安	
			第一中隊……北安	
			第二中隊……龍鎮	
			第三中隊……辰清	
			第四中隊……龍鎮	
			（北安省）	
昭12	6	30	移駐のため、各中隊は北安に集結し、同日北安出発	
	7	1	浜江省、海倫着、同地に駐とん同地付近の警備	
	8	7	一部は、海倫県腰房身付近の戦闘参加	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18 4 24		移駐のため、部隊（全員）海倫出発
5		三江省の方正県、通河県に、次のとおり到着、それぞれ同地付近の警備
		大隊本部……通河（通河県）
		第一中隊……？（方正県）
		第二中隊……清河鎮（通河県）
		第三中隊……鳳山（通河県）
		第四中隊……？（方正県）
昭14 8 8		第五独立守備隊司令官の隷下を脱し、第七独立守備隊司令官の隷下に入る。
8 22		移駐のため、各隊は、それぞれ駐とん地を出発、三江省の依蘭、樺川の各県および東安省の勃利県に到着
		次の配備により、各駐とん地付近の警備
		大隊本部……依蘭（依蘭県）
		第一中隊……通河（通河県）
		第二中隊……依蘭（依蘭県）
		第三中隊……勃利（勃利県）
		第四中隊……千振（樺川県）
自昭14 10 16		依蘭県大青山付近の秋季討伐に参加
至昭15 1 18		通河県下第四師団冬季討伐に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至	9 24	第七独立守備隊の樺川県追分および弼采付近の討伐参加
自至	10 14	
昭16	12 11	第四師団の通河県下冬季討伐に参加
	7 16	臨時編成（甲）下令
	7 17	三江省、鶴立県興安北方地区に移駐
	7 30	編成完結
	10 2	興山出発
	10 3	双河鎮着
昭17	3 14	移駐のため双河鎮出発
	3 15	鶴立県境通過
	3 17	三江省羅北県鳳翔着
		以後の配備は次のとおりで、各駐とん地付近の警備
		大隊本部……鳳翔
		第一中隊……鳳翔
		第二中隊……名山鎮
		第三中隊……鳳翔
		第四中隊……鳳翔
	9 16	復帰下令
	10 15	復帰完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18		配備に変更がなく、各守備地において警備続行
昭19	5	9	第二中隊は、名山鎮出発、同日鳳翔着、主力に合流
	5	16	軍令陸甲第五五号により復帰ならびに臨時編成（甲）下令
	7	10	復帰ならびに編成完結、同日独立歩兵第二六八大隊に編入
			大隊長　大佐　生沼吉郎
			大佐　山方知光
			少佐　千葉隆男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八独立守備隊司令部略歴

通称号　満第二七七部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭14	8	1	軍令陸甲第一三号により編成下令	
	8	10	浜江省哈爾浜において編成完結	
			隷下部隊	
			独立守備歩兵第二三大隊（北安省克山）	
			独立守備歩兵第一四大隊（黒河省孫呉）	
			独立守備歩兵第二八大隊（北安省綏化）	
	8	19	移駐のため哈爾浜出発	
	8	20	黒河省孫呉着	
			同日より同地付近の警備	
昭16	7	3	移駐のため孫呉出発	
			同日北安省北安着	
			同日より同地付近の警備	
	7	16	臨時編成甲下令	
	7	30	編成完結	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭19	5	5	竜江省斉々哈爾に移駐
	7	12	軍令陸甲第八二号により復帰下令
	7	下旬	復帰完結（第一〇四警備司令部に改編） 司令官　大佐　浅川喜保 少将　新美二郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp